

## 府中市美術館運営協議会答申書

- 20周年を迎える府中市美術館の運営について -

平成30年8月

府中市美術館運営協議会

## 【はじめに】

私たち美術館運営協議会は、平成28年11月から2年に渡って計4回の審議を重ね、事務局の報告を聞くとともに、府中市美術館のあるべき地域社会との結びつきとマネジメントのあり方について協議してきた。平成12年に開館した府中市美術館は、この18年間あまり「生活と美術」を基本テーマとして、様々な事業（展覧会、公開制作、教育普及事業など）を開催し、府中市や都内にとどまらず全国的にも一定のファンと評価を獲得してきた。しかし一方で市民協働としての活動、地域社会との結びつき、そして運営面など解決すべき課題もある中で、今後も府中市美術館の設置目的を着実に実現すべく、将来に向けての運営計画を策定していくように望む。

本会が諮問されたテーマ「20周年を迎える府中市美術館の運営」について、理想的な美術館の在り方、あるべき改善の方法、そして地域社会との望ましい連携のあり方について討議内容を提言する。しかし、必ずしも全体として意見集約するまでには至らなかった部分は各論併記とし、話題にあがった個別の問題についても検討し運営協議会の意見とした。

## 【企画展】

企画展覧会とは、新聞社等が持ち込む既成の企画展（多くは巡回展）も含まれるが、当館はこれまで単独企画開催の展覧会を主体として開催してきた。また巡回展であっても当館は企画上の幹事館を担当してきた。こうした学芸の独自企画力により、他では見ることのない、当館らしい展覧会が開催できてきた。今後とも担当学芸員による調査研究の蓄積と、当館への信頼感によって独自企画を継続しユニークな展覧会を是非続けてほしい。加えて、決して開催する一館ではまかないきれない巨額な経費のかかる展覧会にも、内容的に関わりを持ちながら、折をみて巡回展に加わるなどし、多様な市民ニーズにも臨機応変に対応していくべきである。また、近隣美術館との共同開催など、学芸員同士の連携の可能性も模索してほしい。

## 【図録】

府中市美術館の企画展覧会の図録が売り切れていることが多く、観覧者からは強い不満が聞かれる。図録は展覧会を構成する重要な要素であり、会期中に図録が欠落するということは美術館の評価を著しく下げている。増し刷り予算

や図録の一般書籍化なども検討し売り切れ状況がないよう努めるべきである。また在庫は、研究資料の長期提供でもあり適正数の管理も重要である。

#### 【子どもとの関わり】

ある小学校では6年生の図工の授業で岩絵具から作る本格的な日本画の授業を実施している。府中市美術館では毎年春に江戸絵画の展覧会を開催しているので、児童にそういう体験を通した後に、展覧会で本物の日本画を見ることで継続的な関心を持つことにつなげることもできるのではないかと。また、中学生にも美術の裾野を広げていくためには、まず美術部に働きかけるのもひとつの手であると思う。アートスタジオは人気のある事業であるが、美術館だけでなく中学校の美術室などへ出張して実施することも、中学生が参加しやすく興味を持てる機会となるのではないかと。鑑賞教室は、小中学校との学習連携や夏休みの課題事業に終わることなく、子どもたちが美術に興味を持ちつづけ、年齢を経て再び府中市美術館に見に来てくれる、また他の美術館に足を運ぶようになることで、鑑賞によって心に余裕をもつことができるようになることが理想である。そのためには府中市美術館と小中学校とがこれまで以上に協働し、教育研究会との連携などよりよい事業を模索していくべきである。

また、現在のアートスタジオは所蔵品や企画展覧会と連動するような、美術館でしか出来ないようなワークショップを開催して欲しい。今まで美術館に来たことのない人や児童に対する導入手段としてもワークショップは有効であり、ワークショップ参加から展覧会鑑賞へという流れのある館内環境を作りたい。

#### 【展示室内の撮影】

現在府中市美術館では展示室内での写真撮影や携帯電話等電子機器の使用を禁止している。撮影禁止という美術館も多いが、最近は携帯機器で簡単に撮影できる事もあり、あるいは著作権の切れたものをなぜ撮影してはいけないのかという苦情にもつながることもある。国立美術館でも撮影を許可している部分もあり、SNSなどによるPR効果も期待できる。他の来館者の写り込みや撮影音などによる来館者同士のトラブルなどもあるので、一概に撮影可とするのが良いとも言い切れないが、静謐な鑑賞空間の保持に務め、今後撮影可能な場所を設けるなどの検討をして欲しい。

### 【公園と美術館】

公園内にある美術館としての魅力を充実していくべきである。例えば公園との連携強化の一つとして、周辺と美術館をつなぐアイテムとしてレンタル自転車などの導入も積極的に考えてはどうか。また市民文化の日だけでなく、防災活動や夜間ライトアップなどへの公園事業にも今後も積極的に関わり近隣住民に親しみやすい美術館をアピールしていくべきである。

現在の臨時駐車場は美術館からやや離れた距離にあり、舗装もなく雨天時には水たまりが多い。美術館から至近距離に美術館専用の駐車場を設置し高齢者や一家での来館をしやすい努力をすべきである。他の美術館の駐車場と比較しても、当館はかなりの遜色がある。有料化も含めて是非駐車場の改善は必要である。

### 【アンケート】

市民ニーズを理解する上で、アンケートは重要である。インターネット時代も踏まえ、多様なアンケート方式を検討できないだろうか。アンケートボックスも館内に複数配置し、他館のアンケートなども参考としつつ、展覧会特性を踏まえた項目を加えるなど積極的な意見聴取をしていくことも必要である。

### 【施設の老朽化対策と改善】

開館以来20年を経過し、施設面での不具合箇所も散見される。他の美術館ではおよそ30年で大規模な改修の必要にせまられている。当館は定期的な改修によって施設や設備の長寿命化と大規模改修のコストダウンを図る。改修期間の休館は市民サービスの停滞であり、なるべく避けるべきである。改善内容としては、機能復旧とともに、LED化など通常経費のコスト削減、時代変化による市民サービスの改善も念頭に入れるべきである。エントランスの照度不足や館外のベンチの老朽化なども目につく。さらに、授乳スペースの確保、和式トイレの洋式化、高齢者の階段降下時の負担にも苦情があり、エスカレータかエレベータの新設が望ましい。その他、展示室間の鑑賞動線の確保、喫茶店の改善は最重要課題である。改善に当たっては、社会の動向を見据え美術館のみならず先進の施設や設備、サービスを参考にすべきである。洗い出し作業を進め、随時改善すべきである。

### 【喫茶室の改善】

くつろぎを提供する美術館の目的と喫茶室のあり方は不可分の機能であることとの理解が不足している。喫茶室のサービス内容などに対して、美術館全体への評価の中では大変厳しい意見があり、これまでの運営協議会の中でも、幾度か喫茶室の改善は議論の俎上に上ってきたが、一向に改善されてきていない。単なる売店とは異なる美術館らしい喫茶室への要求を美術館鑑賞者は強く持っている。客席数も少なく、とりわけ厨房が狭隘であることが、メニューやサービスが改善されない直接の原因となっている。喫茶スペースの存在を覆い隠してしまっている喫茶室前の小山のスペースを低下もしくは除去し、客席とトイレを増築し、現状の店舗を改造して厨房スペースを拡張するなど思い切った対策が必要である。喫茶室としてだけでなく「美術館の喫茶室」という観点からの苦情に対処するためには、優れた経営コンセプトとノウハウのある運営業者との調整によって内装の改善やメニュー開発も喫緊の課題である。美術館利用者に加えて、公園利用者も対象にできるような施設の改善を行い、営業時間等の見直しを図れば、喫茶室が自立して経営にあたれ、質の高い店舗営業が望める。

一方で、学児童の団体での持ち込み昼食のスペースの提供なども必要である。ゴミの問題も検討した上で、自動販売機の設置も検討し、安価な休憩スペース確保も大切である。

### 【広報】

広報の目的は、直接的には個々の事業内容の告知であるが、間接的には美術館の存在をアピールし、次に各事業の面白さ、美術鑑賞の素晴らしさ、美術品の価値などを幅広く多くの人に知ってもらうことにある。館名のアピールのためには、市内バスターミナルでの告知、バス路線車内でのアナウンス、国道20号線からの案内など基本的な広報が必要である。

インターネット上での展開は不可欠であるが、現在のホームページは美術館のページデザインとして他の美術館からかなり見劣りがしている。市のホームページからリンクで結ばれつつ、他の美術館と同様にデザイン性も考慮したものにすべきである。また、SNSを利用した広報PRについても最新の検討が必要である。

事業広報を展開する中で、マスコミとの連携は重要である。東京都内23区の西側、多摩地域東端の位置である当館の地位を考慮し、多くのメディアとバランスよく連携を図る方針は今後も続けてもらいたい。

#### 【近隣ネットワーク】

府中市美術館へのアクセスでは、京王線を中心としつつも、JR線（特に武蔵野線、中央線）からのアクセスを視野に入れ広報展開してはどうか。

また美術館がある都立府中の森公園は、東府中商店街へとつながり、北府中へは美術館通と続く地域的な広がりを考慮し地域連携をすすめてほしい。府中駅前にできた市民活動センター（プラッツ）で展開される市内の市民団体や、商業団体の催事との積極的な連携を進めてもらいたい。展覧会のアピールとして中央図書館でサテライト展示をするなど、街に美術館を浸透させてほしい。

近隣美術館の来館者に対する当館事業のアピールも有効である。隣接市も含めた各文化施設ネットワークづくりも広報の課題の一つである。

#### 【作品購入】

作品購入は美術館事業の大きな柱である。当協議会としても毎回購入予算への期待を答申し、平成30年度に設置された美術品購入基金に結実したことは誠に喜ばしい。大切な予算を効率的に執行し無駄のない優れた作品収集につとめ、多くの情報のなかから優れた専門家知識を集め、市民に愛され市民が誇れる優れたコレクションを作ってもらいたい。作品だけでなく、地域の作家や重要作家の一次資料についても収集整理し、引き続き地域の美術風土の探求も進めていくべきである。

## 【おわりに】

開館以来、18年間の活動を通じて、事業内容も地に足がつき、充実し知名度も向上してきている。今後とも美術館のアピールとともに、美術館事業の基本を忘れず基礎的活動も継続してもらいたい。オリンピック・パラリンピック開催年の2020年に当館は20周年を迎える。そこでさらに次の20年を見据えた新たな長期展望の策定が望まれる。当館は、今後とも公立直営美術館にふさわしい公平かつ力強く持続性のある美術館活動を続け、全ての市民が誇れる地域の美術館となるよう意義ある事業に努めるべきである。作品収集、事業展開等によって府中市美術館の個性をさらに発揮し、100年後も街の宝物として輝き続ける市民美術館であるために、充実した活動を展開できるよう長期的な計画を保有すべきである。未来に向けてさまざまな市民に、このまちに暮らす喜びと誇りを提供できるような、きらめきのある美術館を目指してもらいたい。

以上を期待して、ここにこの答申書を提出する。

平成30年8月11日

### 府中市美術館運営協議会

会 長	薩 摩 雅 登
副会長	谷 矢 哲 夫
委 員	大 杉 健
委 員	鷺 尾 仁
委 員	馬 場 一 記
委 員	米 谷 一 志
委 員	隠 岐 由紀子
委 員	吉 田 裕 子
委 員	堀 江 一 男
委 員	畔 上 洋 一
委 員	石 田 和 男
委 員	清 水 正 人